

&lt;第49回調査&gt;

2013年06月24日

**【本調査の目的】**

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

**【調査実施期間】**

2013年06月11日(火)13:00～2013年06月18日(火)13:00  
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

**【調査対象】**

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

**【調査方法】**

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。  
今回の有効回答数は838件。  
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

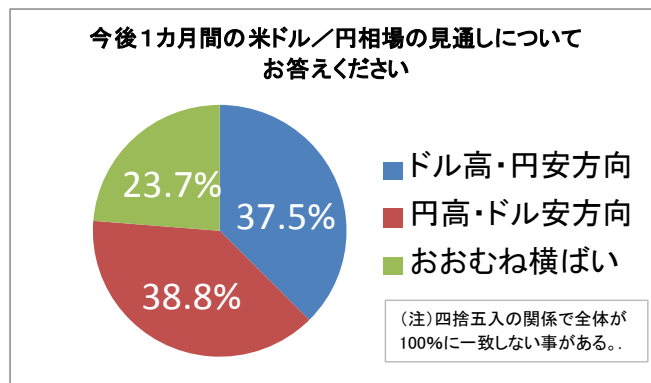
Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第49回調査結果略報：見通しは「円高」に転換】

### 問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

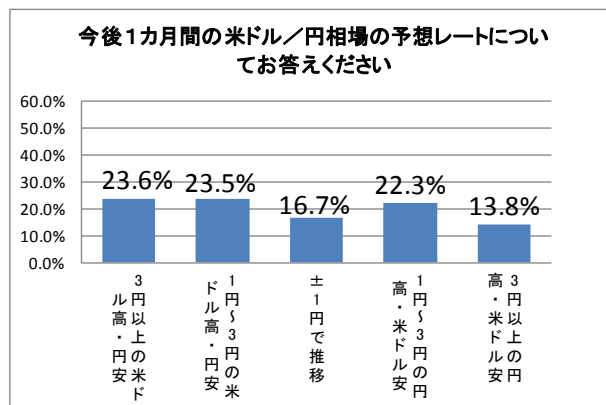
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が37.5%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は38.8%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は▲1.3ポイントとなり、過去最大のプラス幅を記録した前月(+57.8%ポイント)から一転してマイナスと、昨年9月の第40回調査以来9カ月ぶりに円強気・米ドル弱気予想が優勢となった。調査期間中の米ドル/円相場は、11日に日銀が追加緩和策(市場安定化策)を見送った事や、米量的緩和縮小への懸念から世界的に株価が下落傾向を強めた事などが米ドル売り・円買いにつながり、99円台から一時93.79円まで下落する軟調な展開となった。こうした急激な円高・米ドル安方向への動きが、FX投資家の米ドル/円に対する先高感を大きく後退させたと思われる。

※過去の 米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「3円以上のドル高・円安」が23.6%と最も多く、ほとんど差がなく「1円～3円のドル高・円安」が23.5%、「1円～3円の円高・ドル安」が22.3%と続き、「±1円で推移」が16.7%、「3円以上の円高・ドル安」が13.8%の順となった。ヒストグラムの形状はどちら側にも大きな傾きのないフラットなものとなっており、FX投資家の相場観が大きく割れた事を示唆している。特に興味深いのは、「3円以上の米ドル高・円安」と答えた割合と「3円以上の円高・米ドル安」と答えた割合が、いずれも調査開始以来最高となった点だ。過去1カ月間で米ドル/円相場が約10円もの大幅な下落となった事から、今後、相場が反発に向かうにせよ続落するにせよ、その値動きは大きくなるはずだと考えるFX投資家が増加したものと思われる。



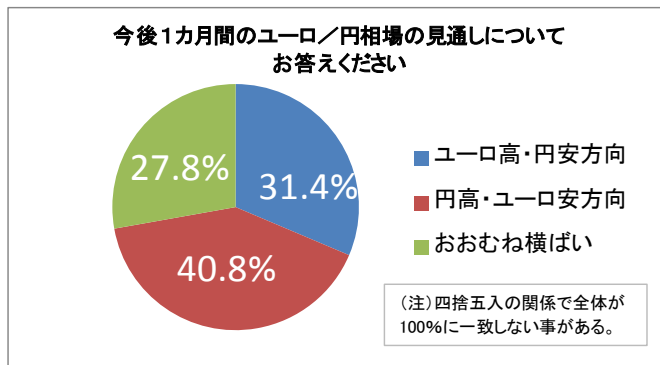
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください**

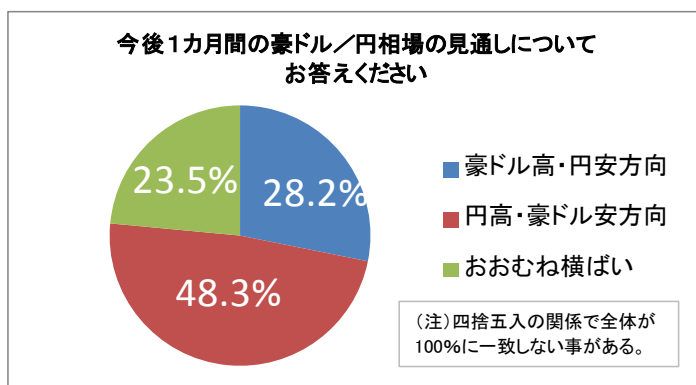
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が31.4%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が40.8%となった。この結果「ユーロ円予想DI」は▲9.4ポイントとなり昨年11月の第42回調査以来7カ月ぶりにユーロ弱気・円強気予想が優勢となった。調査期間中のユーロ/円相場は、131円台前半から13日には124.95円まで大きく値を下げており、こうした相場下落がFX投資家のユーロ強気・円弱気予想を後退させたと見られる。調査期間終盤にかけては、ユーロ/ドルの上昇とともにやや値を戻したものの、FX投資家のユーロ/円先安感を払拭するには至らなかったようだ。

※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



**問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください**

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が28.2%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は48.3%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は▲20.1%ポイントと、2ヶ月連続のマイナスとなり、前月(▲5.0%ポイント)からマイナス幅が拡大した。調査期間中の豪ドル/円相場は、米国の量的緩和縮小への思惑から資源国通貨や新興国通貨に下落圧力が掛かった流れに沿って、93円台から88円台まで下落した。なお、主要3通貨ペアの中で、豪ドル/円の予想DIが最もマイナス幅が大きいとともに、その内訳でも強気予想が最も少なく、弱気予想が最も多かった。FX投資家の豪ドル/円に対する姿勢がこれだけ軟化してしまうと、かつてのように彼らの押し目買い意欲が相場の下支え役となる事は難しいだろう。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

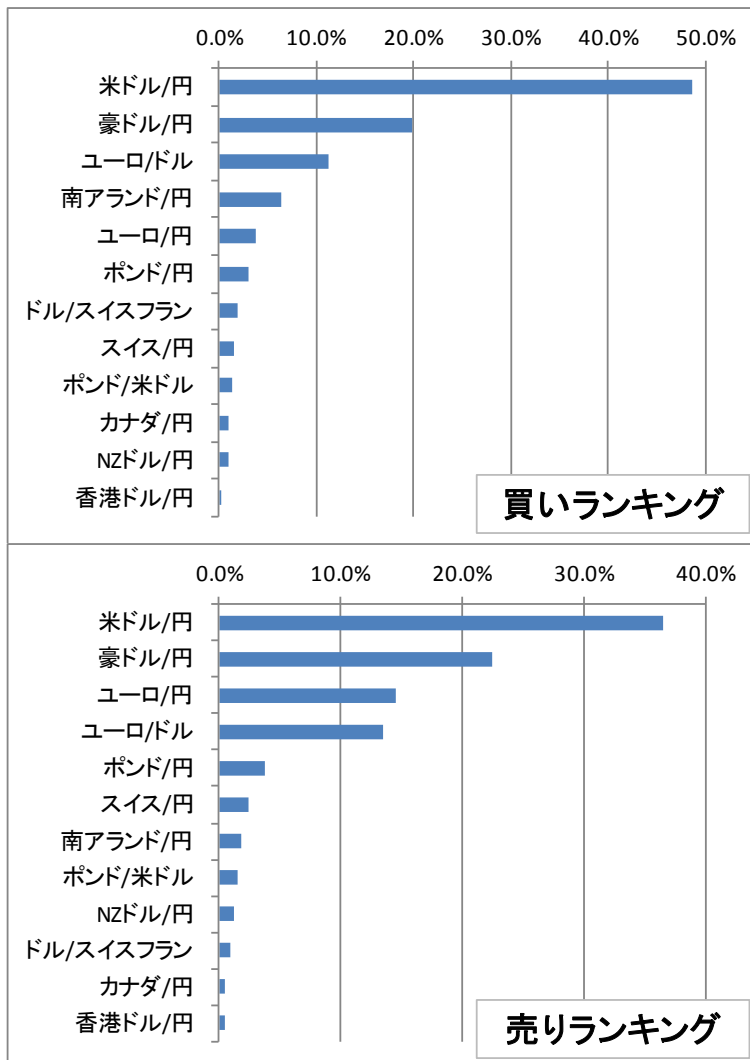


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

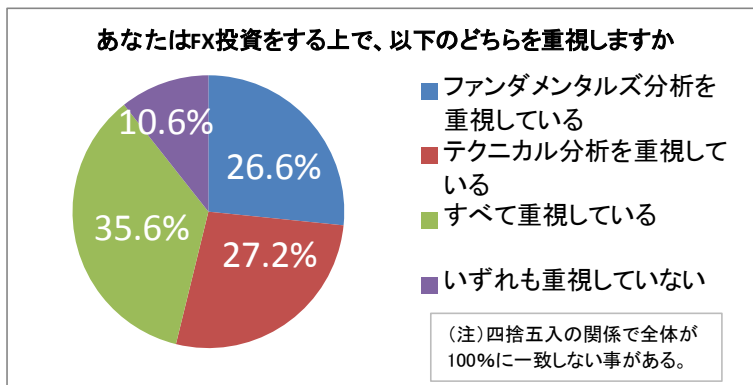
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(48.7%)、2位豪ドル/円(19.8%)、3位ユーロ/ドル(11.3%)、4位南アランド/円(6.4%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(36.5%)、2位豪ドル/円(22.4%)、3位ユーロ/円(14.6%)、4位ユーロ/ドル(13.5%)、となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が1位の座をキープしたとはいえ、その回答割合は前回の72.3%から大きく低下した。一方、「売り」で注目の通貨ペアでは、前回3位であった米ドル/円が1位に浮上しており、その回答割合も前回の23.2%から上昇した。「買い」、「売り」双方のランキングは、いずれも上位陣の顔ぶれにこそ大きな変化はないが、順位と回答割合に顕著な変化が見られた。特に、「売り」で注目のランキングでは1位から4位までの順位が全て入れ替わっており、過去1カ月間の比較的大規模な相場変動が、FX投資家の売り戦略に迷いを生じさせたと言えるだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

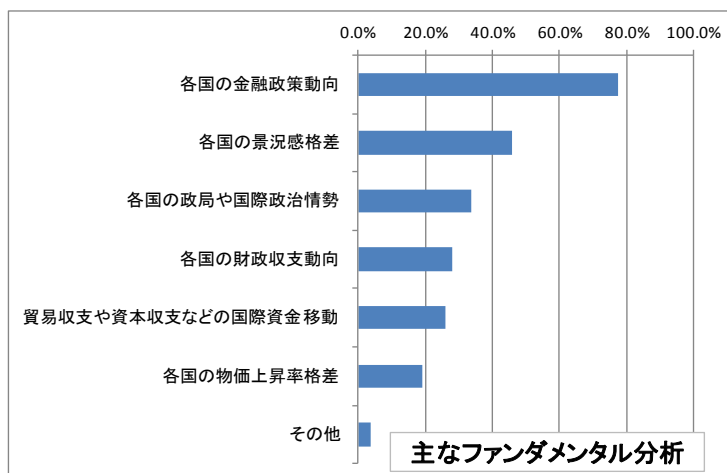
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が26.6%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が27.2%と、ほぼ拮抗しており、「すべて重視している」が35.6%と最も回答割合が高かった。前回調査に比べ「ファンダメンタルズ重視派」が減少(前回:36.8%)した一方で、「テクニカル重視派」が増加(前回:22.3%)した点が特徴的だ。この背景を正確に捉える事は困難だが、米ドル/円を例にとると、量的緩和の縮小というファンダメンタルズ上の米ドル高要因があるにもかかわらず、米ドル・円高が進む中、下げ止まりのポイントを探るためにテクニカル分析を活用する向きが増加したという事かも知れない。



**問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか? (いくつでも)**

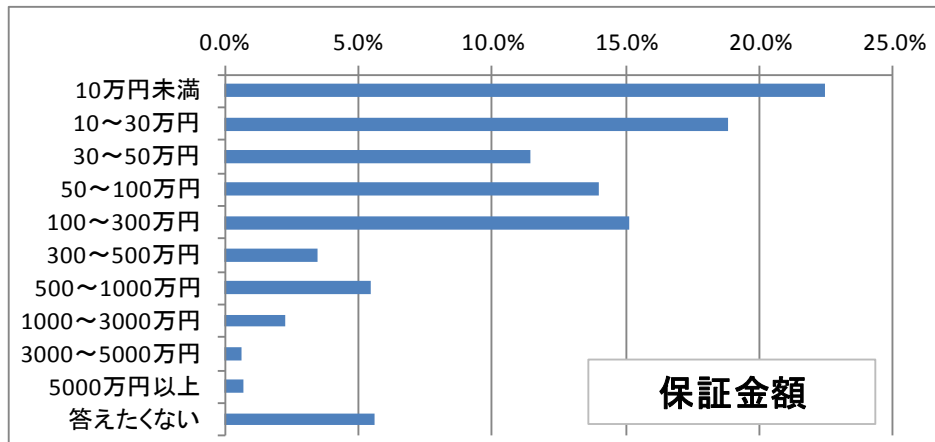
「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(77.5%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(46.1%)」、「各国の政局や国際政治情勢(33.6%)」、「各国の財政収支動向(27.9%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(26.1%)」、「各国の物価上昇率格差(19.0%)」の順に続いた。「各国の金融政策動向」が、依然として圧倒的な支持を集めている。米国の量的緩和の早期縮小観測や、欧州中銀による中銀預金金利のマイナス化、さらには豪準備銀行(RBA)の追加利下げ観測など、各国・地域で、中央銀行による金融政策変更観測がくすぶっている。この点がかような回答結果の背景にあると考えられる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

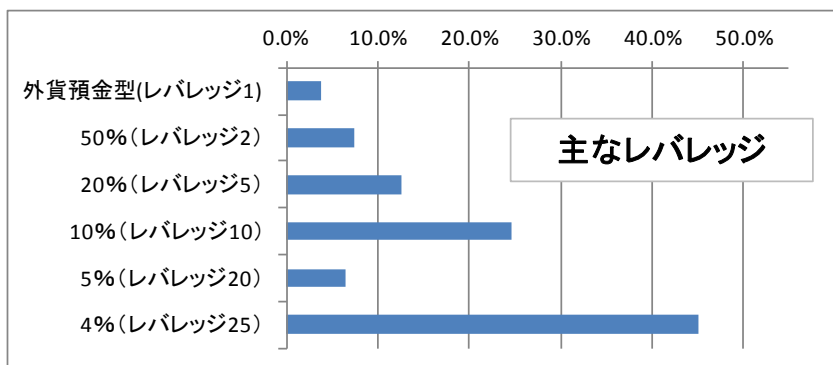
問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が22.4%と最も多く、以下「10～30万円(18.9%)」、「100～300万円(15.2%)」、「50～100万円(14.0%)」、「30～50万円(11.5%)」と続いた。引き続き、小額の保証金で取引を行うFX投資家が多数を占めている事が示された。なお、「500万円以上」の保証金を用いて取引するFX投資家の合算割合は9.1%と、前回調査の15.5%や前々回調査の12.2%から低下した。為替相場のボラティリティ(価格変動率)の高まりとともに、高額保証金を用いた取引を手控えざるを得なかった事は想像に難くない。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が45.1%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が24.6%、「20%(レバレッジ5)」が12.5%と続き、以下「50%(レバレッジ2)」が7.5%、「5%(レバレッジ20)」が6.4%と続いた。最大レバレッジである4%(25倍)を主に活用する向きが引き続き最も多かったものの、その回答割合は57.3%から大きく低下した。また、5%(20倍)も9.1%から低下しており、高レバレッジを活用した取引が減少した様子が覗える。その背景は問8と同様であろう。なお、今回の調査に回答を寄せたFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は15.8倍と、前回調査の18.5倍から低下した。

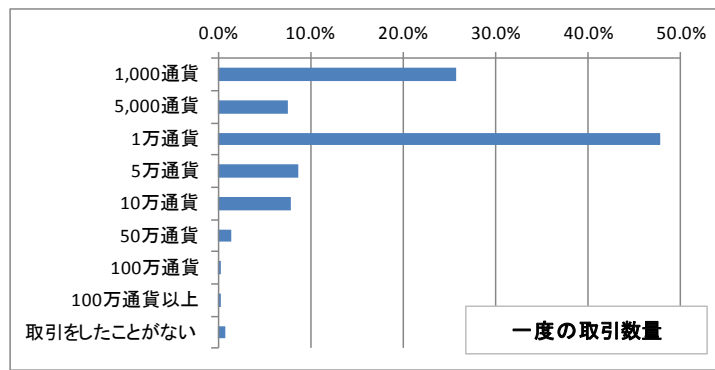


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

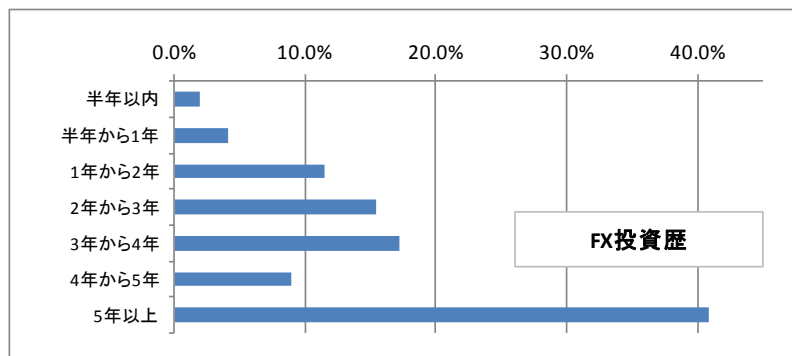
**問10:FX取引において、一度の取引で注文する数量で、最も近いものはどれでしょうか。またその理由をお答えください。**

今月の特別質問項目として「FX取引において、一度の取引で注文する数量で、最も近いものはどれでしょうか」と尋ねたところ、「1万通貨(47.7%)」が最も多く、次いで「1000通貨(25.7%)」、「5万通貨(8.6%)」、「10万通貨(7.9%)」、「5000通貨(7.5%)」と続き、「100万通貨以上」と答えた向きは0.2%にとどまった。1万通貨以下の比較的小額な取引が7割に達した事になるが、それらの向きからは「資金不足」を理由に挙げる例が目立ち、小額取引に「甘んじている」とのニュアンスが感じられた。その一方で、「小ロットで分散投資」、「リスク回避」との回答も見られ、余裕を持った取引を心掛けているFX投資家も少なくなかった。なお、10万通貨以上と答えた向きからは「小さい差益(値幅)で取引するため」と、利ざやを小さく設定した上での高頻度な取引を覗わせるコメントが寄せられた。



**問11:FX取引を始めてからの”取引歴”をお答えください。**

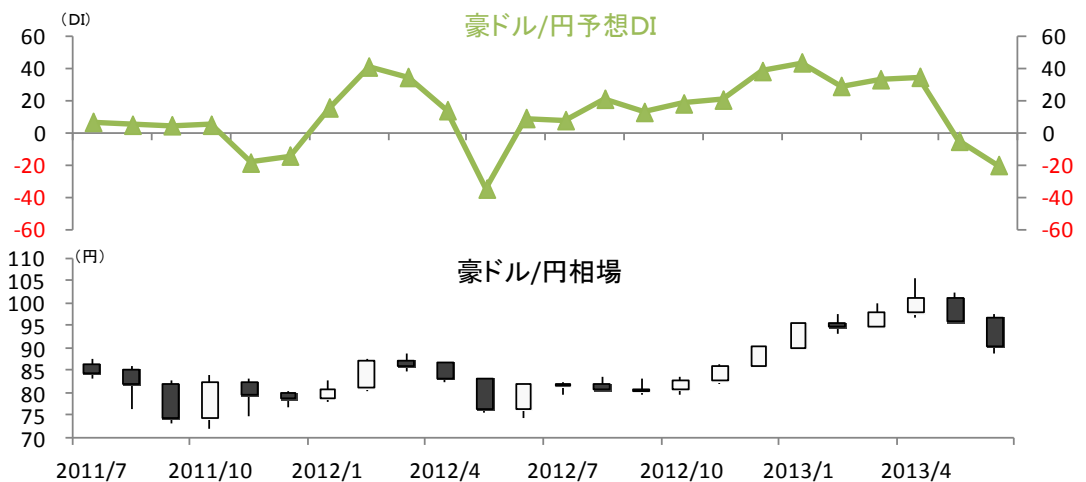
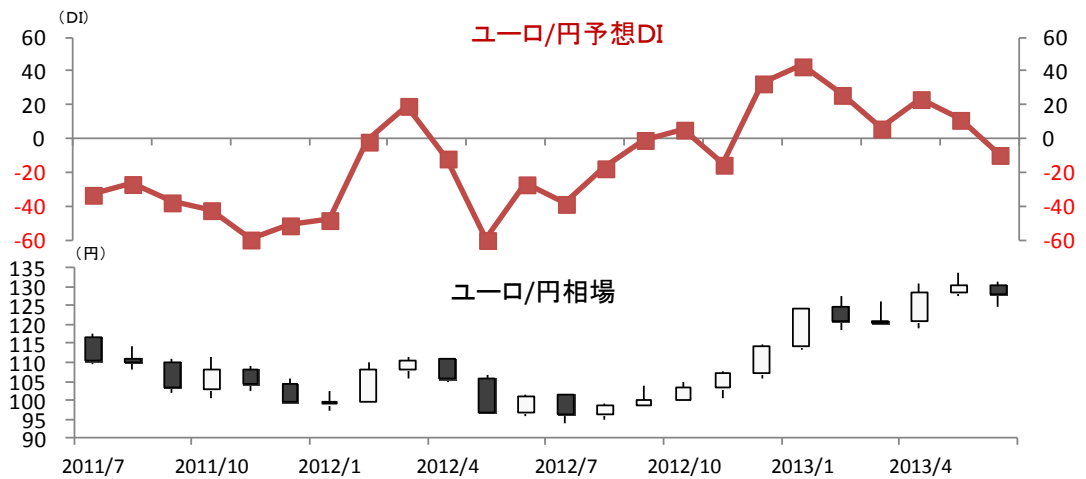
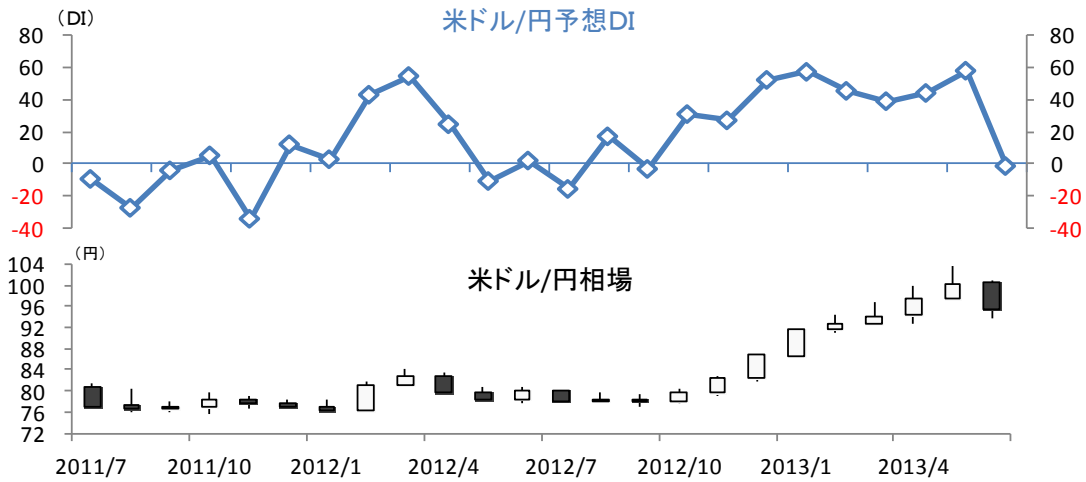
今月のもうひとつの特別質問項目として「FX取引を始めてからの”取引歴”をお答えください」と尋ねたところ、「5年以上(40.9%)」が最も多く、「3年から4年(17.2%)」、「2年から3年(15.4%)」と続き、1年未満(「半年以内」と「半年から1年」の合算)と答えた割合は6.1%にとどまった。FX市場はゼロサムゲームのため、個人投資家が生き抜くのは困難とする一部の見方を覆すように、ベテランの域に達した投資家の割合が高かった事になる。問10の結果から、FX投資家の多くが小額取引を中心としている点と重ね合わせると、長く取引を続けるコツは、余裕を持った取引を心掛ける事にあるとの答えが浮かび上がる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第49回目となりました。調査開始から4年が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握を進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2011年	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1

(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com